

おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー部報第 15 号 (3 月 7 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

久しぶりの発行となります。顧問今野がダレていただけです。

サッカー部としての活動はしていましたよ。「選手を育てることへの熱意」は全く衰えていない自信がある、というか、以前よりも「選手を育てる」ことへの意識は高い。

逆に言えば、「どんな手を使ってでも勝利をもぎ取る」ことへの熱意は低くなっているかもしれない。だから、たまにOBが試合の応援にくると、「先生、おとなしくなりましたね」とか「もっと厳しく言わないんですか（自分たちの時みたいに）」などと言われたりする。

それはともかく、部報作成への熱意の低下傾向は否定できない。前は、「今野先生は筆まめですね」などと褒められていたが、最近は「更新遅くないですか」とか「毎日3回はHPにアクセスして更新を待っているのに（ユートパパ）」などとお叱りを受けることが多くなった。しびれを切らしたか、**八小（うめぼち）、一中でサッカーをした親友で、千葉で子供たちにサッカーを教えている方**から、「いくら何でもそろそろ発行しなさい」と促され、ようやく今パソコンに向かっています。

それで、自分がどれだけダレているのか、確認してみました、年間の部報発行号数。

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
22	20	23	28	29	25	24	24	24	16	20	16	15

今年度は、過去最低を更新してしまいました。もちろん私の熱意の問題もありますが、そのときの試合数も関係します。勝ち進むと、試合が多いので、部報での報告回数も多くなる。昨年度や今年度のように、選手権すぐ負ける、県新人出場できず、のような年だと、必然的に回数は少なくなる。ということで、チームの問題でもある！と自己責任を薄めたところで、**恒例の？残留確率の発表**と行きましょう。

来年度（平成31年度）の今野の残留確率は**40%**です！！この確率の「計算式」については、HPにて平成29年度の部報最終号（16号）をご覧ください。1年ずつ7%減少していきます。ただし、現在2学年担任のため、さすがに来年度は安泰じゃないか、と少し気を緩めてますけど。ですから、おそらく、この部報は来年も発行されますよ～。

さあ、年末からの出来事報告します。どうぞ。

賑やかに納会挙行 優秀選手賞も授与

12月19日（水）**第37回**山東サッカー部納会が恒例の中島商店にて行われました。この企画、**マネージャーが作成した一年間の公式記録集**を片手に、OB会がふるまってくださるすき焼き鍋を囲みながら、一年のまとめをするもので、今年で**37回**を迎えました。後援会からは清野名誉会長・岸会長はじめ多くのOBが集まって下さり、**29年度**からすき焼きだけでなくご飯の量を増やして、選手の体作りもサポートして下さいました。

まず会長から今年一年の悔しさ嬉しさを総括するお話と3年生への受験の激励のあと、**5名**の優秀選手賞を発表し表彰。その後、乾杯（その5名と授賞理由は下の通り）。さまざま

まな作り方がすき焼きにはあろうかと思いますが、現役生は思い思いの「鍋」を作っておりました。途中OBの方々から激励の一言を頂戴し、2年生キャプテンの感謝の言葉があった後は、3年生の決意の言葉。力強い宣言と心配になる宣言と両方ありましたが、**納会で蓄えたすき焼きパワーをぜひ勉強で発揮し、志望の実現に向けて頑張してほしい**と思いました。

奥山登啓

集大成と位置付けていた県総体で骨折し、そのまま選手としては引退となり自らの運命を恨んだが、そもそも故障が多く「もったいない選手」だった。モンテ出身ということで入部時より期待を集めたが、芸達者・モノマネ上手といったオフザピッチでの才能ばかり目立ち、サッカー選手としてはまったく即戦力ではなかった。しかし、他人の言葉に素直に耳を傾ける謙虚さ、真面目さがあり、指摘を改善に結び付ける頭脳を持ち合わせていた。1年から2年にかけて大きく成長し、2年時の県総体ではFWの中心選手に躍り出て、以後、山東の攻撃をけん引した。2年から3年にかけて、体の強さに磨きがかかったのと、左足でのボールキープ（スクリーン）、左足でのキックに向上が見られ、3年時の大活躍が予想された。最終的には悔いの残る高校サッカー人生となったが、その悔しさによって大学サッカーに気持ちに向かうこととなったそうで、骨折も自分の糧にしていけることのできる、していけるはずの人間であると信頼している。

佐々木和将

スピードは抜群にあるが、直線的な動きが速いだけに、その他の動作に柔軟性がないのと技術を身につけてこなかったのとで、入部当初サッカー選手としてかなりレベルが低かった。夏にはボールが強く眼に当たったことで後遺症が残り、サッカーにドクターストップがかかってしまった。保護者からは退部を勧められたが、サッカーへの思いは深く、マネージャーとしてしばらく活動した。しかし、サッカーが好きで、プレーが忘れられず、制限をかけながら少しずつ練習を始めていった。先輩・同輩から実直な性格を評価され、2年途中から副主将に任命され、チームに貢献。医者と保護者を説得し、最終的には制限なくサッカーをするところまでこぎつけ、練習に励んだ。レギュラーポジション獲得とまでは至らなかったが、サイドアタッカーの切り札として機能した。名前からかけ離れた「みやがわ」というあだ名が定着し、本名を忘れるほどになったのも忘れ難い。

菊川遼太郎

小柄ながらアジリティ、スピードに長け、相手守備陣をドリブルで切り裂いた。入部当初からスピードがあり、ボールを運ぶことはそこそこできたが、キックが下手で、シュート・センターリングいずれも平均以下だった。また、ボールタッチが限定されており、縦に仕掛けるか、さもなくばバックパスかしか選択肢がなかった。高校では、それらの短所を補おうと、キック練習をしたり、左足でボールを扱う練習をした。1年から2年にかけて左足でのドリブル技術が向上し、左に仕掛けつつ、無理な時は左足アウトサイドターンをして右足でボールの中に運ぶプレーができるようになり、「前か後か」の2択ではなく、「前かさもなくば中か、仕方なく後か」の3択でプレーし、中に切り込んでからもう一度縦へ仕掛けるものだから、相手への脅威が倍増した。キックに関しては最後まで発展途上であり、強烈なシュートを打ち込んだ記憶はない。大学でも伸びしろがあるということだろう。また、サッカーと勉強を両立させた意志の強さは、顕彰に値する。

石原 奏

FPでのプレー経験はあったが、FPでの自分の能力に自信が持てなかったのとGKのいないチーム事情を考えて、GKを志願。オフザピッチでのトークや学習成績を考えると、とてもストイックな性格とは思えなかったが、GKとして成長したいという気持ちが本気だったのである。一つ上のハレルの良いところを見習い、着実に練習に励んだ。フィジカル能力には欠け、それが必須のGKというポジションでは向上は厳しいと予想されたが、クレバーさがあり、サイドからのハイボールの処理における「出る、出ない」の判断では最終的にハレルをしのいだと評価してよい。シュートストップに関しては、2年から3年に上がるときにグッと伸びて、同じ学年でともにGKとして切磋琢磨した嘉一を上回る決定打となった。真面目だけドクレバーで、真剣だが柔軟性があるという適性は、やはりGKが本職だと思わないではいられない。名前からかけ離れた「ほたて」というあだ名が定着し、本名を忘れるほどになったのも忘れ難い。

今田 太志

主将としてチームをけん引した功績、チーム事情からCBにコンバートされ、攻めたい気持ちを抑えてチームプレーに徹した功績は、非常に大きい。元々はドリブルを得意とするFWであり、2年途中までFWやSHを主戦場とし、レギュラーポジションを絶対にするべき選手だったが、メンタルコントロールが下手で、能力に比してプレーが縮こまり本領を發揮できないことが多く、確保に至らなかった。新チームで主将となり、自覚が生まれたからか、CBというポジションゆえか、自分らの代になって気軽になったからか、わからないが、それまで聞いたことのない力強い指示を出し、まさにチームをけん引した。自分もドリブラーだからか、相手のタッチを読むことができ、対人でボールを奪うことのできる頼もしいCBだった。右足から放たれるロングパスも魅力的だったが、2年冬に足首を骨折し、復帰後もロングキックの能力がなかなか戻らなかったことが悔やまれる。サッカー選手としてまだまだ伸びしろがあるので、今後は、年上にも強く自己主張できる人間になり、常に実力を發揮してほしい。

恒例の正月埼玉遠征、3回の校内合宿実施！

1月3日(木)～5日(土)このたびで**7年目**となる恒例の埼玉遠征に行ってきました。それ以前は、私が妻の実家の埼玉で年末年始を過ごすことから、顧問の私だけ選手権大会を観戦に行き、ちょっとしたレポートをこの部報に書いておりました。すると「先生だけでなく子どもたちにも全国レベルを体験させてほしい」「自分たちも選手権観たい」との保護者・選手の希望があることが分かってきました。ただ、選手権を視察することは簡単ですが、「わざわざ関東まで行って試合を観るだけではな～(合わせて練習試合を企画できれば行ってもいいんだが)」との思いを持っていたところ、とある大会で越谷西高校のスタッフと一緒に、**越谷西さんにお世話になる形で埼玉遠征が実現**した。4年目までは越谷西さんの合宿所にお世話になっていましたが、一昨年度から、他校生徒の合宿所利用が厳しくなったという事情により、民間の宿泊施設に泊まって実施しております。

今年合宿に参加してくれたOBは、山東66回卒¹の**カツミ君**のみ。「2・3人欲しい」と呼びかけたのですが、都合のつくOBがおらず、カツミ君が「誰もいないなら協力します」

¹ 今年3月3日卒業したフトシの代は69回卒でした。

と気概を見せてくれた。カツミ君が、「後輩連中がこれでは（名乗りを上げる人が出ないのは）ダメだ」と一喝してましたよ、**67回・68回卒の諸君！ 罰走ですね、月山にでも行きますか。**3日朝6時に山形を出発し、浦和駒場スタジアムを目指す。途中のSA（確か羽入）では、東海大山形のバスもあった。同じ目論見のようです。**3回戦第一試合のカードは、福島県代表の尚志と前年度王者の前橋育英。**前育は王者だが、尚志は今年プレミアリーグへの昇格を決めた充実のチーム。面白い対決になると思いましたが、期待の通り、素晴らしい試合だった。結果・内容とも尚志の勝ち！ 千葉県出身者が多い尚志ではあるが、東北の代表として期待が持てました²。**第二試合のカードは長崎総科と帝京長岡。**私、こちらも（こちらの方が）楽しみにしてたんです。なぜって長崎総科は、島原商業→国見高校の指導で有名な小嶺先生が監督をされており、いまだに選手は坊主頭、そして圧倒的なハイプレッシャーからの力強い縦への攻めを繰り返すから。昨年度の宮城IHで試合を観て、ビビりました。**動き出しが早すぎる（not 速すぎる）。**意味わかりますか？ ボールを奪ってからサイドのオープンスペースに展開するのですが、サイドの選手はボールを奪う前から走っているのではないかと、思えるほど動き出しのタイミングが早い。さてその第二試合、ボールに対して4人ぐらいで囲んでしまう長崎総科に対して、技術と戦術眼で帝京長岡がプレスをはがす見応えのある試合でした³。**その後は越谷西高校に移動し、遅い時間から練習試合をしましょう。二日目も越谷西で練習試合をさせてもらい、三日目は大宮東さんにお世話になる。**カテゴリーはトップではないのですが、一人一人サッカー選手としてしっかりしている（技術と判断力が）。Aは粘りある戦いはできたが、点数が入らない。Bはカツミ頼みのところがあつた⁴。越谷西さん、大宮東さん、そしてカツミ君、ありがとうございました！

そして、**1月11日～13日、25日～27日、2月9日～11日と、恒例の校内合宿**も行いました。いや～疲れた、というのが本音ですが、その疲労に見合う成長を選手が見せてくれるから、この企画やめられない。以前は、バス代をかけながら日帰りの県外遠征に何度か行ってましたが、ろくにトレーニングを積んでいないのにゲームだけして、当然トレーニングの成果をはかることもできず、うまくプレーできない自分・チームにフラストレーションだけためる、こんな経験を毎年していました。でも、そんなくらいだったら、移動しないでじっくり力をためようということで、ユートの代あたりから始めた。ということは4年目。3回するようになって3年目。今年「2回に減らそうかな～」との思いも頭をよぎりましたが、「これを減らしたらますます来シーズン不安だな～」と思い直し、3回実施。**体育館の使える朝（5時～8時）と夜（19時～22時）に練習し、昼は勉強や体幹トレーニング、白壁先生⁵に指導してもらう柔道式トレーニングを行う。**白壁先生は全合宿に来て下さった。高橋コーチも仕事で忙しい中全合宿に顔を出して下さった。また、**マネージャー**は、洗濯だけでなく、朝晩とおにぎりを作り、練習中に提供してくれた⁶。もちろん保護者の方からのサポートあつての活動でもある。皆さん、ありがとうございました！

さあ、あとは選手諸君が新シーズン、ピッチで暴れるだけですよ！！

2019年シーズンも山形東をよろしくお願い致します。

² 結局準決勝で、同じく東北代表の青森山田にPK合戦の末敗れました（結局山田が優勝）。

³ 結局帝京長岡が2対1で逆転勝ち。時間の関係で前半しか観られず、帝京長岡の逆転劇を観られなかったのは誠に残念でした。

⁴ というか、正直時間が経ち過ぎて、よく覚えてません！ すみません！！

⁵ 旧姓武井先生。本校OG。柔道でIHに行き筑波大学では学生2位まで行った方。現在山形市役所勤務。

⁶ お米は昨年同様、山東サッカー後援会事務局長○藤さん（○和熱処理株式会社社長）から頂戴しました。ありがとうございました。